

## I. 大阪教育大学における男女共同参画に関する現状把握

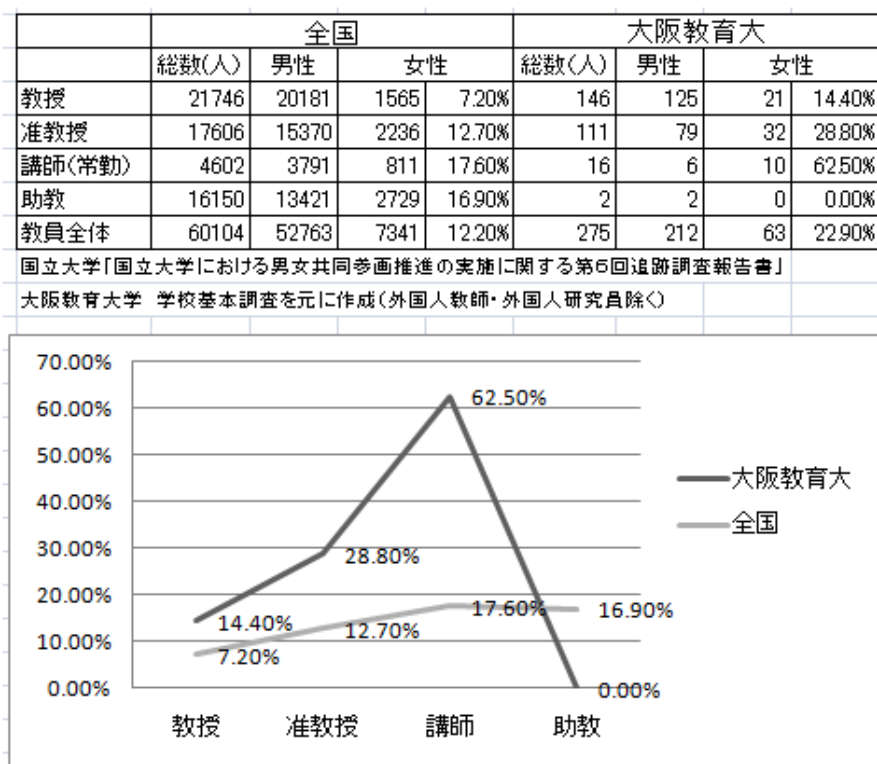
男女共同参画社会基本法制定を受け、2000年6月、国立大学協会（以下、国大協という）は、2010年までに国立大学の女性教員比率を20%に引き上げるという目標を設定し、教育・研究委員会に設けた男女共同参画小委員会において、国立86大学の男女共同参画推進について、2001、2002、2005、2007、2008、2009年と6回の追跡調査を実施してきた。国立大学法人大阪教育大学男女共同参画推進会議企画専門部会（以下「企画専門部会」という。）では、その『国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第6回追跡調査報告書』（2009年5月調査、2010年1月刊）を参考に、2010年より大阪教育大学における男女共同参画を推進する際の現状把握を目的として、本学教職員および学生に占める女性の割合を統計的に把握するとともに、他大学の施策の様態を確認した。

### I-1 国立大学における女性教員比率と大阪教育大学

#### ① 職名別にみる女性教員

本学の女性教員率は22.9%であり、全国で5番目である。国立大学における女性教員率の平均は12.2%、第一位がお茶の水女子大学44.8%、第二位が東京外国語大学31.7%、第三位が奈良女子大学27.4%、第四位が総合研究大学院大学23.5%である。共学の学部を中心とする大学においては、本学の女性教員比率は東京外国語大学に次いで高い。

表 I-1-① 国立大学と本学における職名別女性教員比率



## ② 新規採用教職員における女性の割合

職名別にみると、助教以外のすべての職階において本学は全国比率より高い。講師、准教授、教授の順で女性教員比率が高いのは、女性教員採用率が低かった過去に比較して、新規採用時における女性比率が上昇したことが背景にあると考えられる。2004年度以降、女性教職員の採用はおおむね50%前後で推移している。

表 I-1-② 大阪教育大学における新規採用者における女性割合の推移

	2004年度			2005年度			2006年度			2007年度			2008年度			2009年度(12/1現在)		
	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性	総数	男性	女性
大学教員	13	8	5 (38.5%)	1	1	0 (0.0%)	5	3	2 (40.0%)	7	5	2 (28.6%)	9	5	4 (44.4%)	9	4	5 (55.6%)
附属教員	26	13	13 (50.0%)	33	16	17 (51.5%)	36	19	17 (47.2%)	43	22	21 (48.8%)	56	32	24 (42.9%)	50	26	24 (48.0%)
事務	7	3	4 (57.1%)	1	0	1 (100.0%)	7	3	4 (57.1%)	4	2	2 (50.0%)	5	1	4 (80.0%)	15	6	9 (60.0%)
計	46	24	22 (47.8%)	35	17	18 (51.4%)	48	25	23 (47.9%)	54	29	25 (46.3%)	70	38	32 (45.7%)	74	36	38 (51.4%)

## ③ 管理職に占める女性の割合

本学の役員は6名中、女性は0名、その他の管理職の女性割合は、教員10%程度、附属学校教員21.4%である。内閣府男女共同参画局は、「社会のあらゆる分野における政策・方針決定過程への女性の参画の拡大」をめざし、2020年にはその割合を30%にするという数値目標を掲げるが、大学における女性管理職の登用は今後、その方法も含めての検討課題である。ちなみに国大協の2009年度調査では、全国の国立大学における女性比は、学長86名中1名、理事342名中2.6%の9名、副学長は150名中3.2%の5名、学長補佐等の役職者は442名中7.2%の32名、経営協議会および教育研究評議会委員は2763名中3.7%の103名、部局長等は1247名中2.7%の34名、常勤監事は53名中女性は0名であった。

表 I-1-③ 大阪教育大学における管理職数の推移

事項	2004		2005		2006		2007		2008		2009	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
教員	34	4	34	4	32	4	32	4	35	3	35	3
附属	12	2	11	3	11	3	10	4	11	3	11	3
事務	15	0	16	0	15	0	14	0	14	1	14	1
計	61	6	61	7	58	7	56	8	60	7	60	7

※各年度の5月1日現在の状況

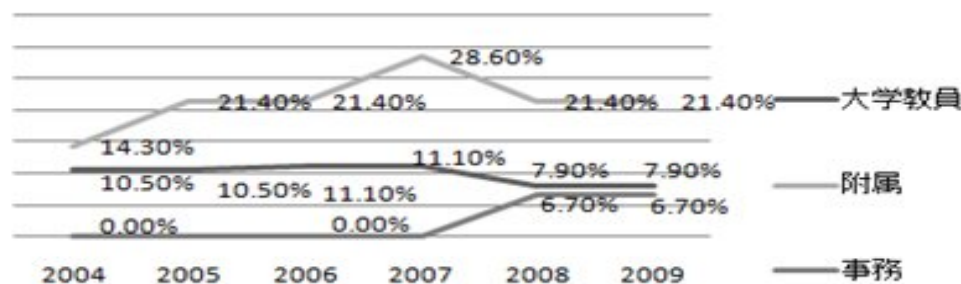


図 I-1-③ 大阪教育大学管理職における女性比率の推移

#### ④ 事務系職員に占める女性の割合

事務系職員における女性比率を職階別にみると、本学において課長職にある女性は1名に過ぎない。全国国立大学の事務系職員の平均値において課長相当職以上の職員2175名中女性は76名3.4%であり、全国的な課題である。

係長は、全国の事務系職員平均女性比率20.5%よりやや高く、2010年現在26.5%である。他方で、非常勤職員の79.6%、係員の62.2%が女性である。

表 I-1-④ 大阪教育大学における事務系職員の職階別女性比率の推移

職階別	2008年度			2009年度			2010年度		
	男性	女性	女性比(%)	男性	女性	女性比(%)	男性	女性	女性比(%)
部長	2	0	0.0	3	0	0.0	3	0	0.0
課長	12	1	7.7	12	1	7.7	12	1	7.7
課長代理	14	2	12.5	13	1	7.1	13	0	0.0
係長	39	12	23.5	37	13	26.0	36	13	26.5
主任	9	8	47.1	4	7	63.6	6	6	50.0
係員	17	19	52.8	16	24	60.0	17	28	62.2
看護師・栄養士・調理師等	1	7	87.5	1	7	87.5	1	6	85.7
参事・主事	0	0	0.0	1	0	0.0	2	0	0.0
特命職員	0	0	0.0	3	1	25.0	3	2	40.0
非常勤職員	29	90	75.6	27	101	78.9	28	109	79.6

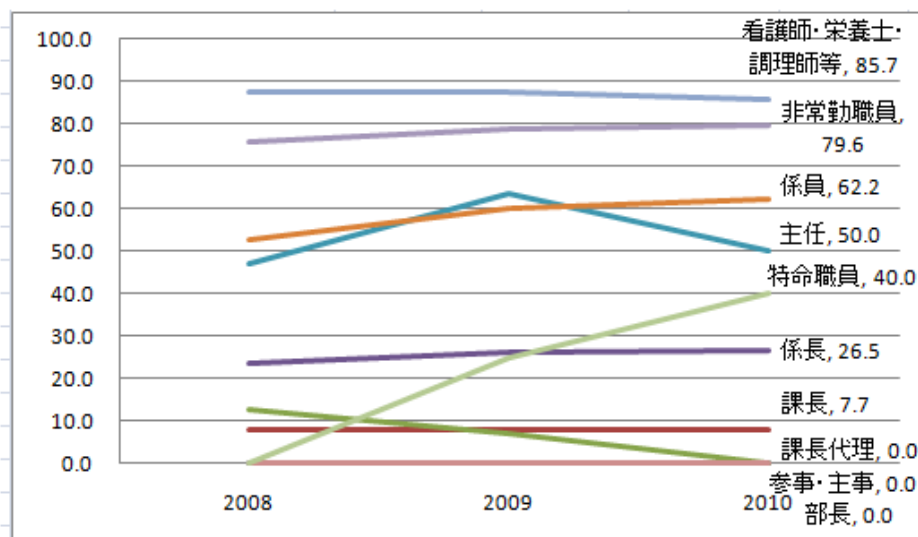


図 I-1-④ 大阪教育大学における管理職の女性比率の推移

#### ⑤ 教職員の世代別男女構成比

大阪教育大学教職員における女性比率を世代別にみると、20代が61.6%、30代が52.9%、40代が42.2%、50代が28.0%、60代が15.8%である。

教員の場合には、職名別にみると女性には教授が少なく准教授、講師が多いことや、事務系職員の場合、課長補佐以上の職階に女性が少なく係員に女性が多いことは、若い世代ほど女性が多いことと無関係ではない。

表 I-1-⑤ 大阪教育大学における教職員の世代別女性比率の推移

世代別	2008年度			2009年度			2010年度		
	男性	女性	女性比(%)	男性	女性	女性比(%)	男性	女性	女性比(%)
20歳代	29	26	47.3	27	32	54.2	28	45	61.6
30歳代	67	85	55.9	78	101	56.4	89	100	52.9
40歳代	149	91	37.9	150	102	40.5	145	106	42.2
50歳代	169	65	27.8	160	60	27.3	157	61	28.0
60歳以上	98	26	21.0	89	17	16.0	80	15	15.8

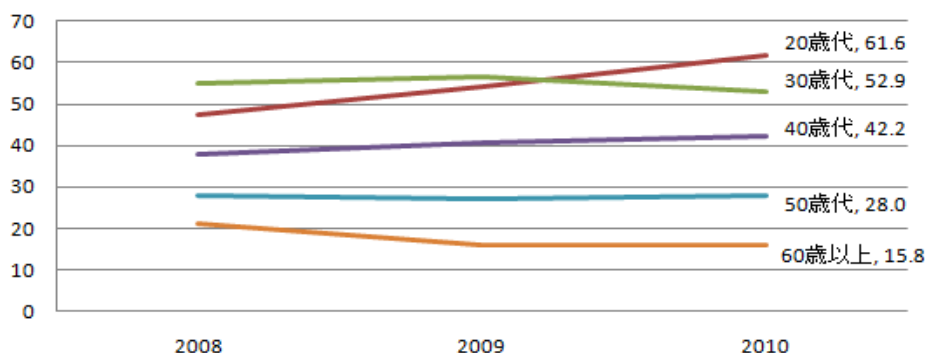


図 I-1-⑤ 大阪教育大学における教職員の世代別女性比率の推移

## I-2 大阪教育大学における教員と学生の女性比率

### ① 所属別にみた女性教員比率

「男女共同参画基本計画」は、研究者のなかでも自然科学系に女性が少ないことを問題にしており、自然科学系全体として女性研究者を25%（理学系20%、工学15%、農学30%、保健30%）とする数値目標を設定している。この数値目標は、2010年12月に閣議決定され発表された「第三次男女共同参画基本計画」にも踏襲されている。大学においては、女性参画に関する現状を把握する際に、自然科学系における女性研究者率を明らかにしていく必要があるが、その作業に先立って、本報告書では所属別に見た女性教員率の推移を確認しておく。

教員養成課程の女性教員比率は27.3%で33名、教養学科は16.2%で16名、第二部は17.4%で4名、センターは35.7%で10名である。

表 I-2-① 大阪教育大学における所属別女性教員比率の推移

講座名	2008年度			2009年度			2010年度		
	男性	女性	女性比率(%)	男性	女性	女性比率(%)	男性	女性	女性比率(%)
<b>教員養成課程</b>	<b>97</b>	<b>30</b>	<b>23.6</b>	<b>90</b>	<b>34</b>	<b>27.4</b>	<b>88</b>	<b>33</b>	<b>27.3</b>
技術教育	5	0	0.0	5	0	0.0	5	0	0.0
美術教育	6	2	25.0	5	3	37.5	5	3	37.5
国語教育	6	2	25.0	5	2	28.6	5	2	28.6
学校教育	17	3	15.0	15	4	21.1	14	5	26.3
社会科教育	14	3	17.6	12	3	20.0	12	3	20.0
保健体育教育	7	0	0.0	8	0	0.0			
保健体育							8	0	0.0
家政教育	1	6	87.5	1	7	87.5	1	7	87.5
理科教育	15	3	16.7	14	3	17.6	14	3	17.6
特別支援教育	9	1	10.0	9	1	10.0	8	1	11.1
数学教育	6	1	14.3	6	1	14.3	6	1	14.3
音楽教育	4	3	42.9	4	3	42.9	4	3	42.9
養護教育	3	4	57.1	2	4	66.7	2	3	60.0
英語教育	4	2	33.3	4	3	42.9	4	2	33.3
<b>教養学科</b>	<b>85</b>	<b>18</b>	<b>17.5</b>	<b>86</b>	<b>16</b>	<b>15.7</b>	<b>83</b>	<b>16</b>	<b>16.2</b>
芸術	15	2	11.8	16	2	11.1	14	2	12.5
生涯教育計画論	3	0	0.0	3	0	0.0			
発達人間福祉学	4	0	0.0	4	0	0.0			
人間行動学	2	1	33.3	2	1	33.3			
人間科学							9	1	10.0
数理科学	8	0	0.0	8	0	0.0	8	0	0.0
社会文化	4	2	33.3	5	2	28.6	5	2	28.6
欧米言語文化	11	6	35.3	11	5	31.3	11	5	31.3
日本・アジア言語文化	5	1	16.7	4	1	20.0	4	1	20.0
自然研究	19	1	5.0	18	1	5.3	17	1	5.6
スポーツ	3	1	25.0	4	1	20.0	4	1	20.0
情報科学	8	0	0.0	8	0	0.0	8	0	0.0
生活環境	0	3	100.0	0	2	100.0			
健康科学	3	1	25.0	3	1	25.0			
健康生活科学							3	3	50.0
<b>第二部</b>	<b>21</b>	<b>4</b>	<b>16.0</b>	<b>20</b>	<b>4</b>	<b>16.7</b>	<b>19</b>	<b>4</b>	<b>17.4</b>
実践学校教育	21	4	16.0	20	4	16.7	19	4	17.4
<b>センター</b>	<b>18</b>	<b>8</b>	<b>30.8</b>	<b>18</b>	<b>9</b>	<b>33.3</b>	<b>18</b>	<b>10</b>	<b>35.7</b>
教職教育研究開発センター	9	3	25.0	10	3	23.1	10	4	28.6
留学生センター	1	2	66.7						
国際センター				1	3	75.0	2	3	60.0
情報処理センター	1	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0
科学教育センター	1	1	50.0	0	1	100.0	0	1	100.0
保健センター	2	0	0.0	2	0	0.0	2	0	0.0
学校危機マニュアルサポートセンター	4	2	33.3	4	2	33.3	3	2	40.0
キャリア支援センター							1	0	0.0

※1 「保健体育教育」→「保健体育」(平成22年度)  
 ※2 「生涯教育計画論」・「発達人間福祉学」・「人間行動学」→「人間科学」(平成22年度)  
 ※3 「生活環境」・「健康科学」→「健康生活科学」(平成22年度)  
 ※4 「留学生センター」→「国際センター」(平成21年度)

所属組織別にみて女性教員比率がもっとも高いのが、家政教育講座の 87.5%であり、ここでは男性教員は 1 名のみである。次いで、養護教育講座 60.0%、4 名、国際センター 60.0%、3 名、音楽教育講座 42.9%、3 名と、健康生活科学講座 50.0%、3 名となっている。

女性教員が皆無である講座は、教員養成課程では技術教育講座、保健体育講座、教養学科では数理科学講座、情報科学講座である。

## ② 大阪教育大学学生における女性の割合

過去5年の本学学生統計によると、全学学生における女性の割合は約54%であり、男性より若干多い。

所属別にみると、学部学生はおおむね50%強が女性であり、大学院生は逆に50%強が男性である。専攻科は母数が小さいため年度によって変動がある。

表 I -2-② 大阪教育大学における属性別女性学生比率の推移

	2006年度		2007年度		2008年度		2009年度		2010年度	
	総数	女性	総数	女性	総数	女性	総数	女性	総数	女性
学部生	4416	2457 (55.6%)	4462	2422 (54.3%)	4359	2348 (53.9%)	4294	2175 (50.7%)	4248	2328 (54.8%)
専攻科	19	16 (84.2%)	15	11 (73.3%)	16	7 (43.8%)	27	6 (22.2%)	19	13 (68.4%)
大学院	464	237 (51.1%)	502	268 (53.4%)	427	221 (51.8%)	479	222 (46.3%)	467	215 (46.0%)
計	4899	2710 (55.3%)	4979	2701 (54.2%)	4802	2576 (53.6%)	4794	2604 (54.3%)	4734	2556 (54.0%)

※ 学校基本調査(毎年5月1日現在)による(非正規生を除く)。但し2006年度学生数は年度末統計

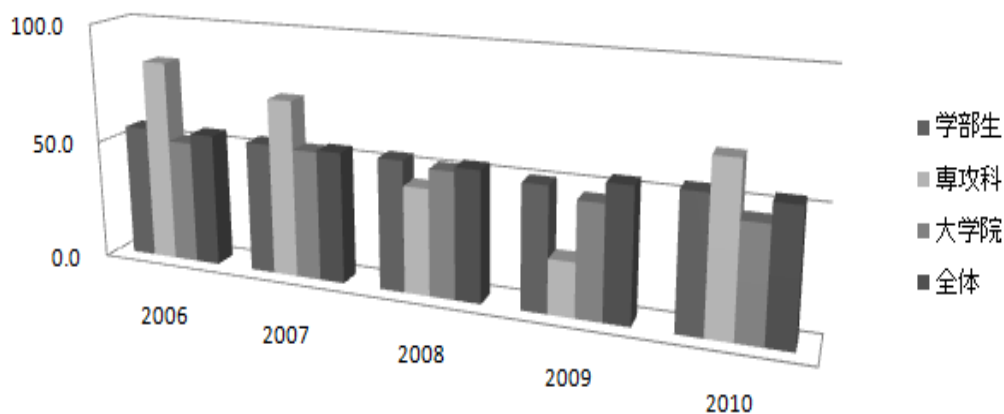


図 I -2-① 大阪教育大学における属性別女性学生比率の推移

『国立大学における男女共同参画推進の実施に関する第6回追跡調査報告書』では「女子学生の割合に見合った女性教員比率にすること」が目指すべきところとされている。それゆえ、本学における講座所属教員の比率に対して、当該講座が教育を担当する学生(学部・院生・専攻科生 但し複数講座で担当するため国際文化専攻は含まず)における女性学生率を算出した。教員と学生間の男女比に開きが大きい講座は、芸術講座であり、学生の女性比率が86.6%に対して教員の女性比率は12.5%であった。特別支援教育講座の学生の女性比率71.4%に対して教員の女性比率は11.1%がそれに続く。学生の女性比率に対して、教員の女性比率が高いのは家政教育講座のみであった。同講座では、学生の84.9%、教員の87.5%が女性である。

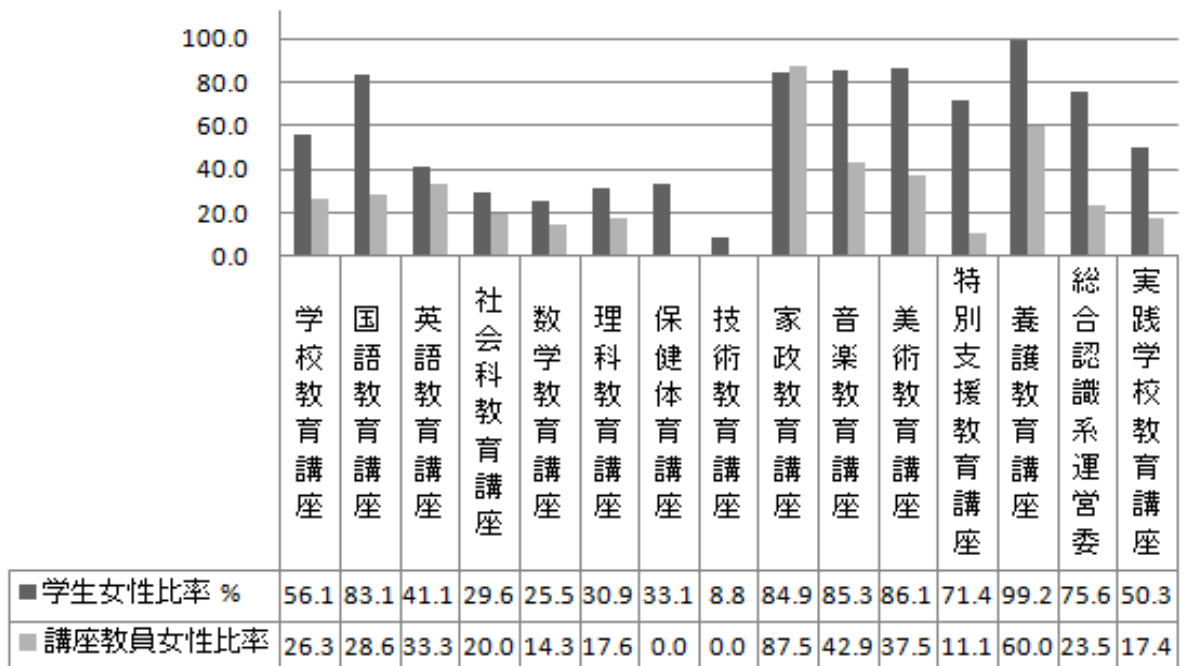


図 I-2-② 教員養成課程における学生と教員に占める女性比率

(学生数は講座が教育を担当する専攻学生数を 2010 年 5 月 1 日現在の調査より算出)

(「総合認識系運営委」は「総合認識系運営委員会」の略)

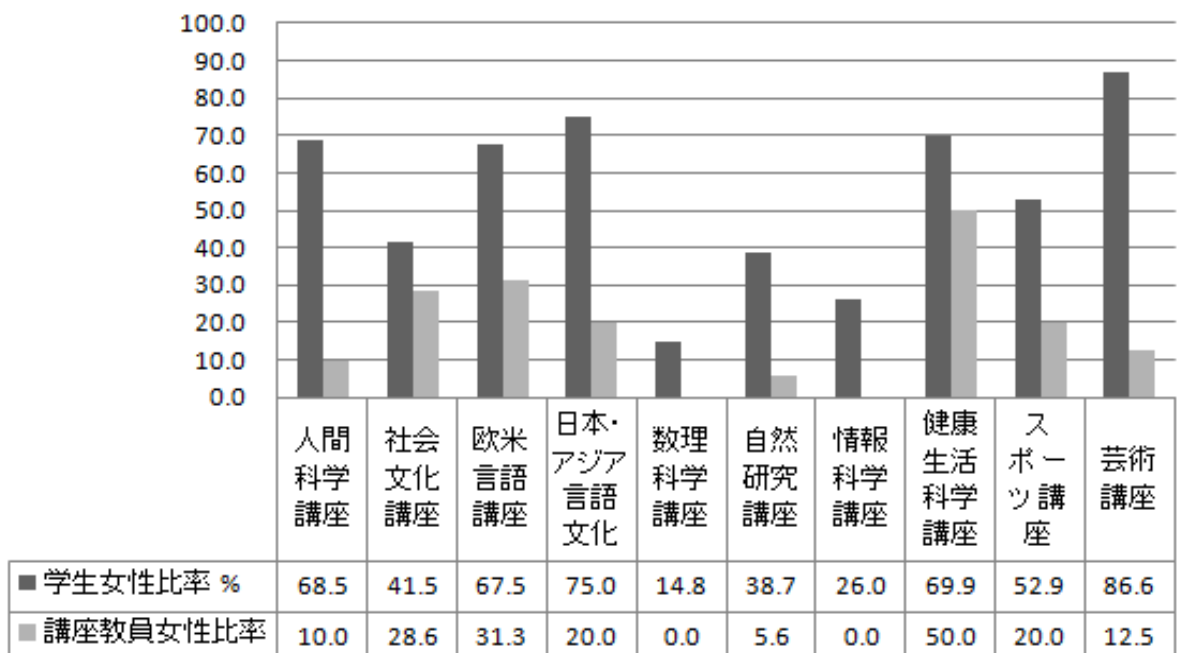


図 I-2-③ 教養学科における学生と教員に占める女性比率

(学生数は講座が教育を担当する専攻学生数を 2010 年 5 月 1 日現在の調査より算出)